

【添付資料1】

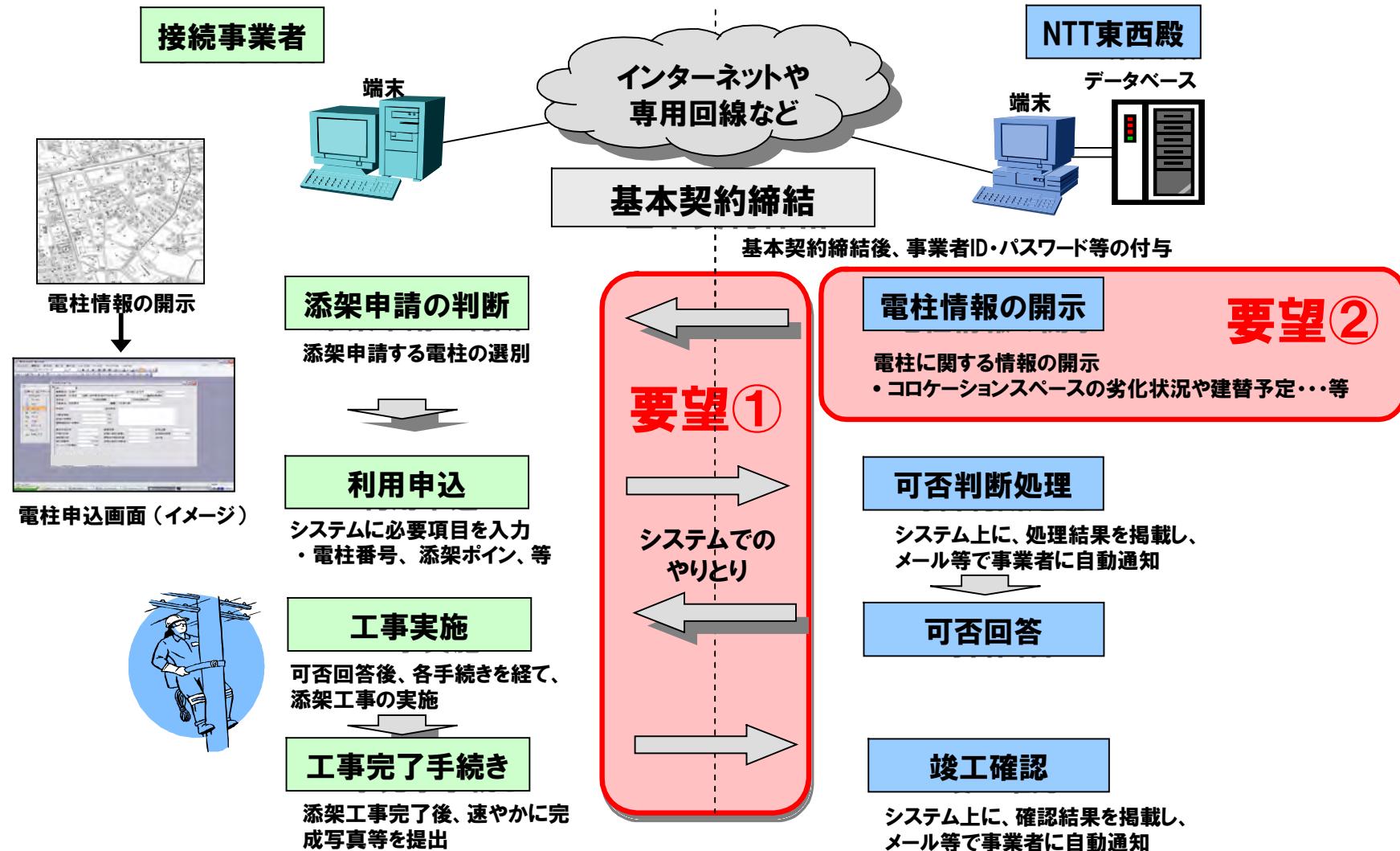
NTT東西殿と接続事業者との同等性確保に向けた見直し要望 (コロケーション等接続ルール関連)

(注)本資料は、総務省殿が本年7月11日まで実施していた意見募集
「コロケーションルールの見直し等に係る措置報告に対する検証
結果(案)」に対して、弊社が提出した意見書の添付資料になります。

要望事項: 電柱添架申請手続きのシステム化を要望

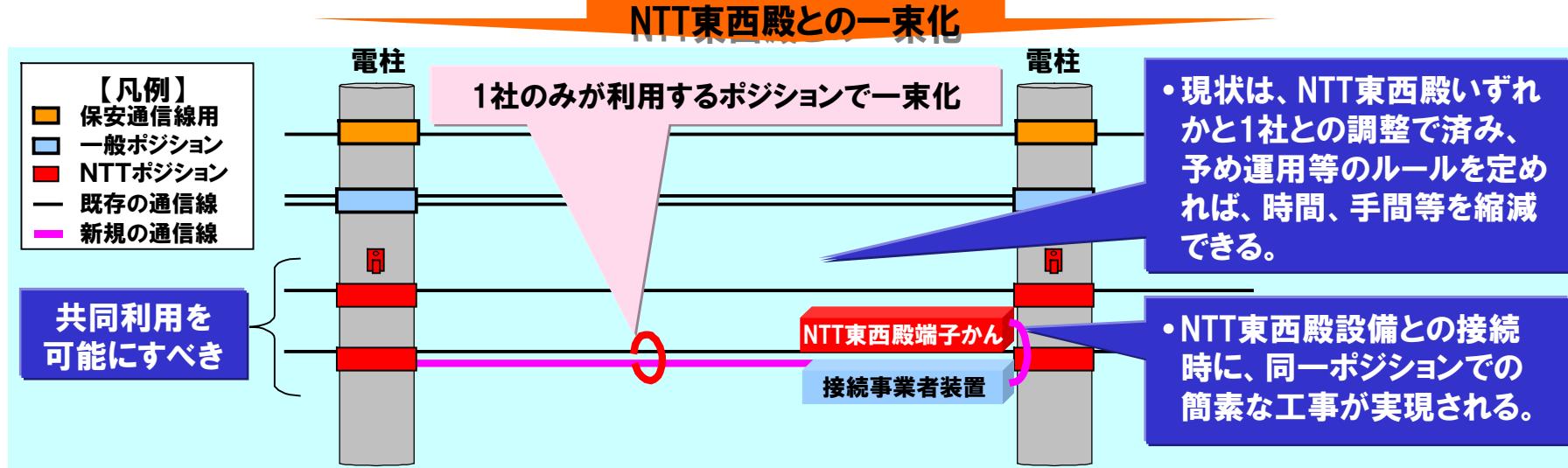
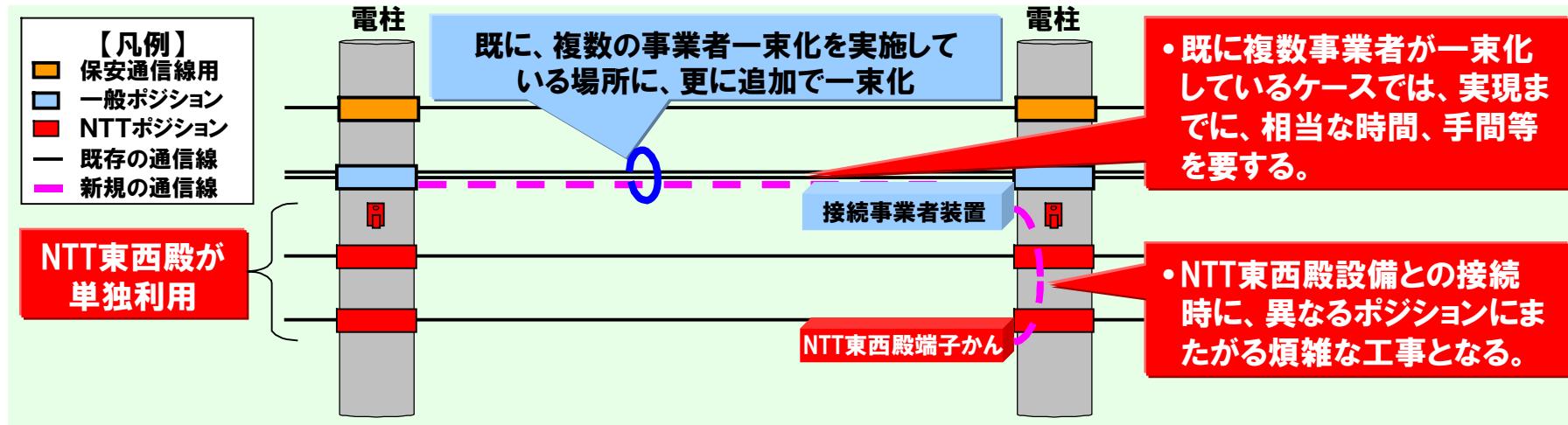
このシステム化に併せて、以下の対応も要望

- ① 紙ベースでの申込みや契約書以外の押印書類の提出を原則不要
- ② 電柱情報(不良電柱情報、建替計画等)を事前に開示



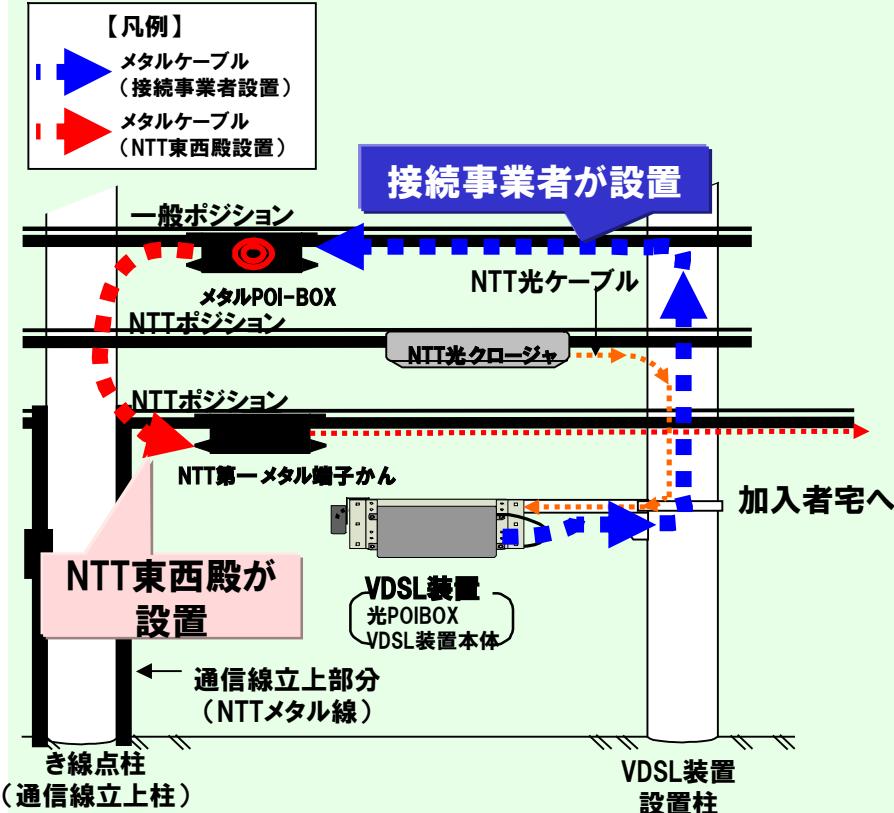
以下の主な理由により、NTT東西殿との一束化の実施が必要

- 一般ポジションは多くのケースで、複数の事業者との調整に時間等を要するため
- NTT東西殿の設備と同一のポジションで接続することで、柱上工事の簡素化等が図れるため

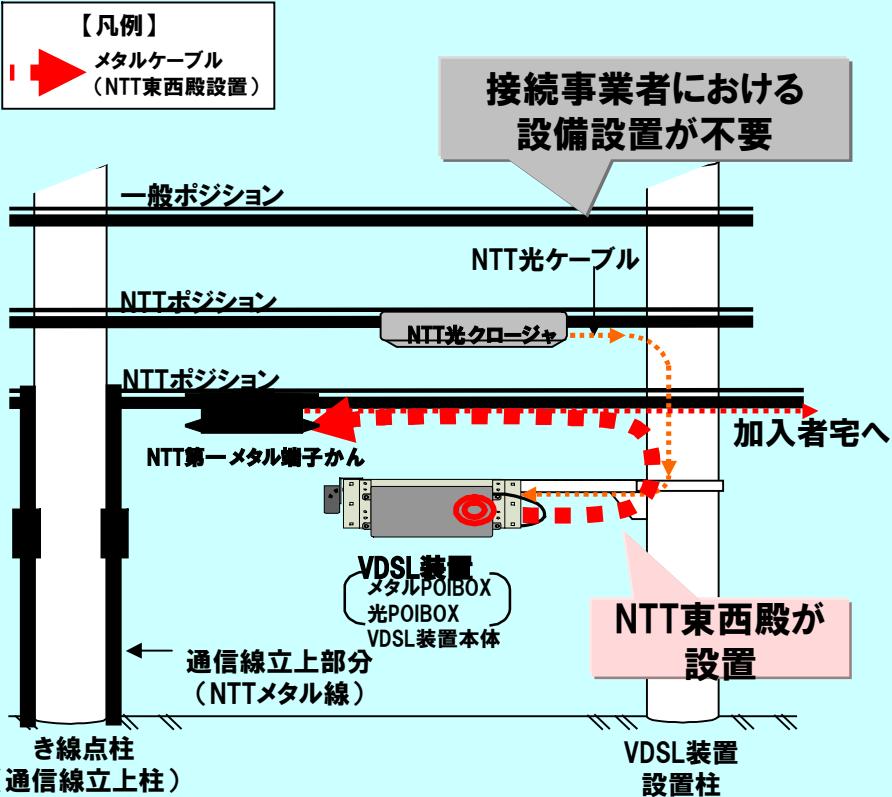


VDSL装置の接続においては、
一束化の問題を回避するために、隣接柱までのメタルPOIケーブル延伸が有効

現在の標準的な接続構成



メタルPOIケーブルの延伸



【主な課題】

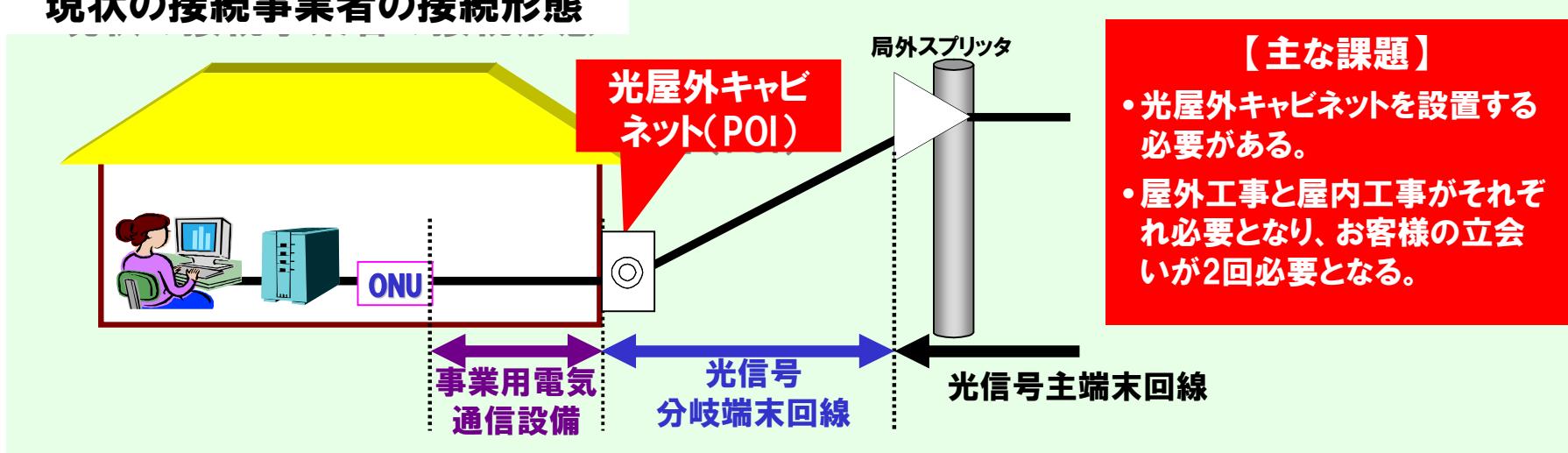
- 既に複数事業者が一束化している場合、相当な時間を要する
 - 一般ポジションとNTTポジションにまたがった、煩雑な工事が発生する
 - NTT東西殿との接続に複数の電柱を利用する

【主な改善点】

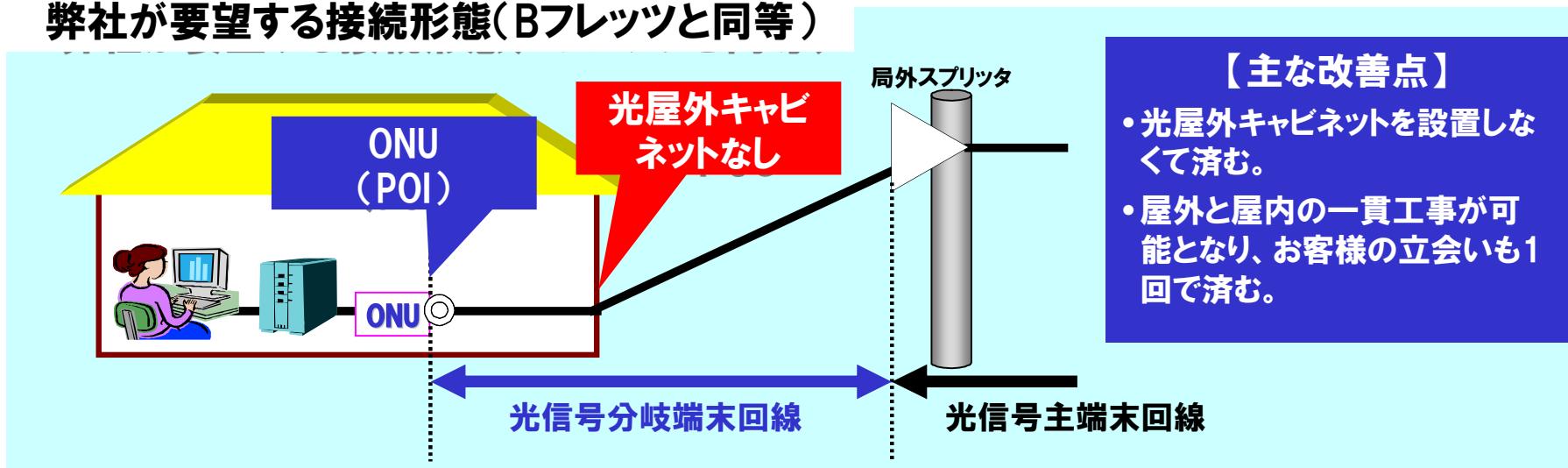
- ・他の事業者との一束化が不要となり、一束化に係る課題が回避できる
 - ・一般ポジションとNTTポジションをまたがる工事が発生しない
 - ・VDSL装置を設置する電柱のみの利用で済む

接続事業者が、NTT東西殿のBフレッツサービスと同等に、
光ファイバ回線の屋内配線工事を行うためのルール整備が必要

現状の接続事業者の接続形態



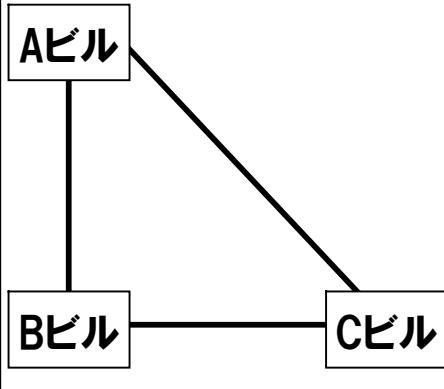
弊社が要望する接続形態(Bフレッツと同等)



中継ダークファイバの起点ビルと終点ビルの情報だけでは、
実際の経路が把握できず、経路に関する追加情報が必要

【申込】

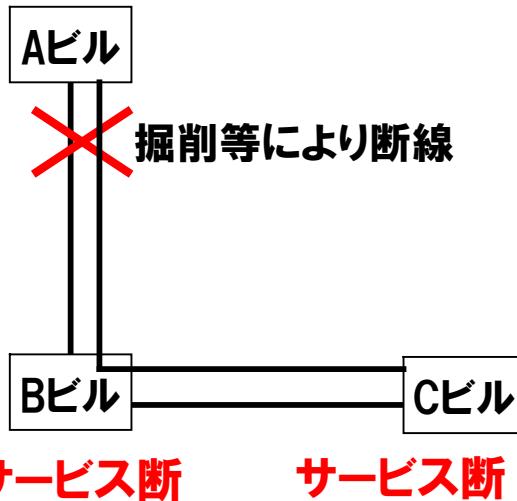
(イメージ)



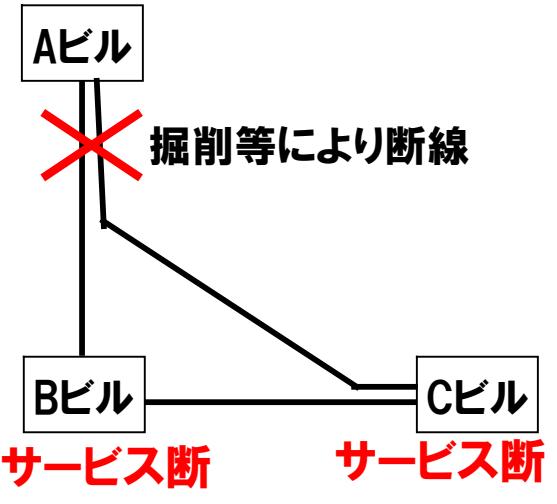
申込区間	起点ビル	終点ビル
1	A	B
2	B	C
3	A	C

【実態例】

経由ビル名情報が必要な例



区間ACは実はBビルを経由しており、
区間ABと同一の管路・ケーブルに
収容されている。

重複区間・その距離の
情報が必要な例

区間ACは実は途中まで区間ABと同一
の管路・ケーブルに収容されている。

局舎コロケーションの有効利用に向けた取り組みを行なうべき

【現行】



E社用の局舎スペースが必要
 ↓
 局舎スペースに空きがない
 場合は設置不可

E社
 新たな
 設置設備

【複数事業者による共用例】



B社とE社
 で合意
 E社
 新たな
 設置設備

E社用の局舎スペースは不要
 ↓
 局舎スペースが空いてなくても、
 条件が整えば設置可(B社ラック共用)

FTTRサービスの接続構成にあわせた ドライカッパ接続料(下部区間)を新たに設定することが適当

FTTRサービスの接続構成図(契約回線型)

